

高坂古墳群發掘見學記

史談會員 鈴木光四郎

研究會の菊池君は内郷町の遺物はなかつた。

き古墳の一部が墓地の擴張の

ために切り取られてゐるのを

のようである。

それが同じではあるまい。

江坂氏に連絡したところ高坂

を下したが反應がなかつた。

四、五號墳はトレンチを掘

ないか。相馬の眞野古墳に

ない所から出土してお

りボーリングを下したが石棺

於ても、こうしたことがあつ

たが全体的に見て二十世紀

考古學的研究室長尾氣君の

調査に着手したのである。

発掘調査の結果

一號墳は深さ一米七十七セン

年から五百年前頃の古墳群

中心に高坂のきみが住居して

いる。木棺に鐵製品などを

きみが行つたことや、やがて高坂

の状況を見學したのであるが

その意を強めた次第である。

青年會の程崎、西家、八代、高坂

母 信ちゃんねぼ

お母さん

六月四日、虫歯豫防

デーでしよう、僕、

もう起きていいん

歯をみがとうと、

それで、歯を大切に

して、身体をもつと

構築技術が不充分であつたか

調査に着手したのである。

高坂古墳群は今から千四百

年の歴史がある。

考古學的研究室長尾氣君の

調査に着手したのである。

考古學的研究室長尾氣君の